

医療機関2025プラン

【回復期・慢性期専門部会で協議した医療機関】

No.	対象医療機関	プラン	ページ
1	豊関会記念病院	医療機関2025プラン	1
2	昭和病院	医療機関2025プラン	5
3	岡病院	医療機関2025プラン	9
4	下関リハビリテーション病院	医療機関2025プラン	13
5	安岡病院	医療機関2025プラン	17
6	武久病院	医療機関2025プラン	21
7	光風園病院	医療機関2025プラン	25
8	王司病院	医療機関2025プラン	29
9	長府病院	医療機関2025プラン	33
10	あずま病院	医療機関2025プラン	37
11	西尾病院	医療機関2025プラン	41
12	前田内科病院	医療機関2025プラン	45
13	桃崎病院	医療機関2025プラン	49
14	森山病院	医療機関2025プラン	53

豊関会記念病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定
(平成31年 2月 改定)

【基本情報】

医療機関名	豊関会記念病院
開設主体	医療法人社団豊関会
所在地	山口県下関市長府江下町2番10号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	57床 一般病床57床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	57床 一般病床57床
診療科目	内科・リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	38名 8名(常勤換算 4.33名) 18名 7名 5名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・ 届出入院基本料 一般病棟特別入院基本料
平均在院日数 369日（平成30年11月～平成31年1月）
病床稼働率 80.9%（平成31年1月）
長期入院患者が多い（180日超え 38名、平成31年1月）
全患者の73%が長期入院となっている。（平成31年1月）
- ・ 救急指定病院の取下げ（平成30年8月末）

② 自施設の課題

- ・ 地域の医療需要の減少が見込まれること、また医療提供の実状から現状の体制を変更する。
- ・ 病床機能報告においては厚労省「平成30年度病床機能報告マニュアル①」に基づき、慢性期に修正した。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 地域における医療療養を担う

② 今後持つべき病床機能

- ・ 医療療養病床を検討する

③ その他見直すべき点

- ・ 医療機関全体として、病床利用率が低下傾向であり、今後の医療需要の推移を加味して、最適な形態について検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	57		53
休棟等			
(合計)	57		53
介護保険施設へ移行予定	—		—
うち、介護医療院	—		—

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	慢性期病床一般57床を医療療養53床に転換	

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

外科を廃止（救急指定病院の取下げ） H30. 8. 31 内科・リハビリテーション科とする H30. 10. 1

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】（自由記載）

--

昭和病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人茜会 昭和病院
開設主体	医療法人茜会
所在地	下関市汐入町 35 番 1 号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	398 床 一般病床 164 床、療養病床 234 床 回復期 160 床、慢性期 238 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	398 床 一般病床 164 床、療養病床 234 床 回復期 160 床、慢性期 238 床
診療科目	内科、脳神経内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科、皮膚科 泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、歯科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	425 名 17 名 181 名 101 名 47 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料：一般病棟入院基本料（急性期一般5）、回復期リハビリテーション病棟入院料1、地域包括ケア病棟入院料2、障害者施設等入院基本料10対1、特殊疾患病棟入院料1、療養病棟入院基本料（入院料1）、介護療養施設サービスI型療養機能強化型A

在宅療養後方支援病院

通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・居宅介護支援事業所併設

救急搬送受入：年間 55件、病床稼働率 98.4%

② 自施設の課題

- ・高齢者、特に独居高齢者や認知症高齢者への医療ニーズの増加に対応
- ・回復期リハビリテーション、在宅サービス、後方支援機能の一層の強化
- ・神経難病患者・人工呼吸器装着患者の受け入れ拡大、在宅療養困難者の増加への対応
- ・有能な医療介護人材の育成、新技術の開発、地域介護力の向上、健康な街づくりへの支援
- ・施設設備の改築更新

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域包括ケアシステムの構築に寄与する

明るい超高齢社会には、住み慣れた場所を中心に、医療、介護、予防、生活支援サービスを充足させる地域包括ケアシステムの構築が期待されている。当院は、今後とも回復期リハビリテーションをはじめ、通所リハビリや訪問リハビリ等の在宅サービスの充実を一層進めて行く。また、亜急性期救急患者の受入れなど、後方支援病院としての機能充実を図り、地域包括ケアシステム構築の一翼を積極的に担って行く。

- ・神経難病患者・人工呼吸器装着者等、在宅療養困難者の増加への対応

当院はこれまで、神経難病患者や人工呼吸器装着患者など、在宅療養の困難度が高い専門医療分野の患者を多く受入れており、今後もその要請に一層応えて行く。

- ・人材の育成、新技術の開発導入、地域介護力の増進

超高齢社会に相応しい優秀な医療介護人材の育成や、ロボットリハなどの新技術の導入、地域の社会資源を賦活して地域介護力を増進するなどの社会貢献に取り組んでいく

② 今後持つべき病床機能

- ・介護医療院

③ その他見直すべき点

.

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	160		160
慢性期	238		178
休棟等			
(合計)	398		338
介護保険施設へ移行予定	—		60
うち、介護医療院	—		60

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	慢性期病床60床を介護医療院に転換	地域で過剰な慢性期病床の削減

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

【4. その他】(自由記載)

--

医療法人星の里会 岡病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人星の里会 岡病院
開設主体	医療法人星の里会
所在地	山口県下関市小月本町二丁目 15-20
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	92 床 医療療養病床 60 床 (地域包括ケア病床 46 床、療養病床 14 床) 介護療養病床 32 床 回復期 46 床、慢性期 46 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	92 床 医療療養病床 60 床 (地域包括ケア病床 46 床、療養病床 14 床) 介護療養病床 32 床 回復期 46 床、慢性期 46 床
診療科目	・ 内科・外科・整形外科 ・ 脳神経外科 ・ リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 看護補助者 ・ 専門職 ・ 事務職員	75.5 名 4.5 名 (常勤換算) 32 名 20 名 12 名 7 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料：地域包括ケア病棟入院料2、療養病棟入院基本料2、介護療養型病床

（医療療養病床60床）平均在院日数 34日、病床稼働率 64.4%

（介護療養病床32床）平均在院日数 313日、病床稼働率 90.2%

特徴：4機能のうち回復期・慢性期機能あり

② 自施設の課題

- ・ 今後も回復期機能と慢性期機能を両輪として地域医療に貢献していく予定であり、回復期は平成30年4月に地域包括ケア病棟を増床した。一方で慢性期の機能維持の為、介護療養型病床から介護医療院への転換予定であるが、資金面、建設土地、工事中のより良いスムーズな患者の移行方法で検討中。
- ・ 地域の医療需要の減少が見込まれることに加え、近隣の病院との関連で、現状の体制に関し、検討が必要。
- ・ 一部職員の高齢化等、将来の人員の確保。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 急性期を過ぎた患者様や自宅療養が困難な患者様の受け皿として、地域における回復期機能の一翼を担う。
- ・ 地域の方々の健康のため、地域に密着したかかりつけ医として貢献していく。
- ・ 治療だけでなく、健康診断などを呼びかけ、予防医療にも貢献。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の慢性期病床は一定程度維持する必要があるが、規模の適正化を検討する
- ・ 回復期機能を提供する病床の維持。

③ その他見直すべき点

- ・ 医療機関全体として、病床利用率が低下傾向であり、今後の医療需要の推移を加味し、病床種類転換時等に、最適な病床規模について検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	46		46
慢性期	46		14
休棟等	0		0
(合計)	92		60
介護保険施設へ移行予定	—		32
うち、介護医療院	—		32

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2020	介護療養型病床を介護医療院に転換	慢性期病床の維持。病床数の適正化。

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療提供に関する項目（病床稼働率 回復期90%以上、慢性期95%以上） ・ 経営に関する項目 （説得力のある当院の方針をうちだし、金融機関、地域からのより一層の支援を得たい） ・ その他（地域医療介護総合確保基金など、基金や助成金を活用していきたい）

【4. その他】（自由記載）

--

下関リハビリテーション病院 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院
開設主体	一般社団法人 巨樹の会
所在地	下関市今浦町9番6号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	165床 療養病床 165床 回復期 165床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	165床 療養病床 165床 回復期 165床
診療科目	リハビリテーション科、内科、循環器内科、放射線科、外科、整形外科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	298名（常勤のみ） 6名 124名 152名 16名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 回復期リハビリテーション病棟入院料1（全床）

平成29年度実績 平均在院日数 65.9日 稼働率 99.1%

特徴 リハビリ専門病院（当然ながら脳血管リハビリ・運動器疾患リハビリ・廃用リハビリは行っている。それ以外に心臓リハビリ・脊髄損傷・パーキンソン病LSVTも積極的に行っている）

② 自施設の課題

- ・地域医療構想で回復期機能が不足していると言われるが現状夏から秋に関しては空床も多い。
- ・回復期リハビリ専門病院で対象者が限られるため、回復期以外の対象外受け入れを積極的に行うか検討課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・在宅でリハビリが必要な方が多くいる。そのため当院では在宅からの対象外の受け入れの必要性がある。当院では外来リハ、訪問リハ、通所リハを積極的に行っている。今後も継続して行って行きたい。
- ・急性期からの早期受入を行う。

② 今後持つべき病床機能

回復期機能の見直しは現状ない。

③ その他見直すべき点

特にない。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	165		165
慢性期			
休棟等			
(合計)	165		165
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

安岡病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団松涛会 安岡病院
開設主体	医療法人社団松涛会
所在地	下関市横野町3丁目16番35号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	278床 一般病床62床、療養病床216床 回復期108床、慢性期170床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	278床 一般病床62床、療養病床216床 回復期108床、慢性期170床
診療科目	内科、緩和ケア内科、脳神経内科、呼吸器内科、整形外科、 リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	21名 186名 429名 17名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- (1) 届出入院基本料 : 地域包括ケア病棟入院料2、緩和ケア病棟入院料2、回復期リハビリテーション病棟入院料2、特殊疾患病棟入院料1療養病棟入院料1、療養型介護療養施設サービス費（I）
- (2) 平均在院日数 : 82.1日
- (3) 病床稼働率 : 95.3%

② 自施設の課題

- ・いわゆる回復期で2病棟・慢性期で4病棟をそれぞれ機能別に、異なる施設基準で運営している地域多機能型病院ですが、当医療圏の他回復期・慢性期病院との機能重複や、急性期病院等からの紹介率などを考慮し、各病棟のより適正な病床数について再検討が必要である。
- ・上記に併せ、地域での在宅医療後方支援病院としての基盤強化が必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域包括ケアシステムの要となる地域包括ケア病棟を増床し、急性期病院及び地域の在宅療養支援診療所からの紹介入院を中心とした回復期医療（ポスト・サブアキュート機能）の提供体制を充実・強化していく役割。
- ・現在、平成30年12月開設に向けて新病棟を建設中であり、慢性期医療環境を整備（適正な病床数）すると共に、特に緩和ケア（がん・神経難病）を通して、質の高い地域慢性期医療を提供していく役割。

② 今後持つべき病床機能

- ・上記①のとおり、地域多機能型病院として、特に、地域包括ケア病床並びに緩和ケア病床への受療ニーズは、益々増大基調であり、さらなる機能充実・増強が必要と考えています。

③ その他見直すべき点

- ・介護療養病床廃止に伴い、地域包括ケアシステムの一翼を担う介護医療院への転換を図る。平成30年4月には、介護医療院（44床）の開設を行う計画です。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	108		106
慢性期	170		128
休棟等			
(合計)	278		234
介護保険施設へ移行予定	—		44
うち、介護医療院	—		44

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018		
2019	慢性期病床44床を介護医療院に転換	介護療養型医療施設廃止のため

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

武久病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団青寿会 武久病院
開設主体	医療法人社団 青寿会
所在地	下関市武久町2丁目53番8号
許可病床数	380床
(病床の種別)	一般病床 60床、療養病床 320床
(病床機能別)	回復期 105床、慢性期 275床
稼働病床数	362床
(病床の種別)	一般病床 60床、療養病床 302床
(病床機能別)	回復期 87床、慢性期 275床
診療科目	内科、循環器内科、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科 皮膚科、歯科
職員数	361名
・ 医師	27名
・ 看護職員	231名
・ 専門職	57名
・ 事務職員	46名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般：特殊疾患病棟入院料 1
療養：回復期リハビリテーション病棟入院料 6、地域包括ケア病棟入院料 2
療養病棟入院基本料 1、介護療養施設サービス費 1
病床稼働率 90.1%（平成30年4～9月平均）

② 自施設の課題

- ・地域で不足している在宅復帰後の受け皿となる訪問診療所の開設、訪問看護ステーションの拡充が必要
- ・退院先として自宅系施設（ベッド）の確保、連携先の拡大

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域包括ケアシステムの構築を実現すべく、急性期病院、かかりつけ医、自治会、地域包括支援センター等との連携を強固なものにしていく
- ・医療、介護の中重度者を地域で支える役割

② 今後持つべき病床機能

③ その他見直すべき点

- ・病床稼働率が低迷しており、建物老朽化・病床再編に伴う大規模改修、必要人員の確保、下関医療圏の人口動向等を加味し、最適な病床規模について検討する

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	105		105
慢性期	275		180
休棟等			
(合計)	380		285
介護保険施設へ移行予定	—		95
うち、介護医療院	—		95

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	慢性期(介護療養)病床95床を介護医療院に転換	地域で過剰な慢性期病床の削減

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

光風園病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 愛の会 光風園病院
開設主体	医療法人 愛の会
所在地	山口県下関市長府才川二丁目21-2
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	285床 一般病床60床、療養病床225床 回復期225床、慢性期60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	270床 一般病床60床、療養病床210床 回復期210床、慢性期60床
診療科目	内科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ その他	411名 8名 107名 88名 208名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・療養病棟入院料1 --- 90床
 - ・回復期リハビリテーション病棟入院料1 --- 60床
 - ・地域包括ケア病棟入院料2 --- 60床
 - ・特殊疾患病棟入院料1 --- 60床
- ◎病床稼働率 --- 91.4% ◎平均在院日数 --- 144.3日

② 自施設の課題

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

急性期からの受け入れ（ポストアキュート）や地域の開業医・施設等更なる連携強化による在宅支援機能（サブアキュート）の充実させ、地域多機能型病院としての役割を果たしていく。

② 今後持つべき病床機能

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	225		225
慢性期	60		60
休棟等	0		0
(合計)	285		285
介護保険施設へ移行予定	—		0
うち、介護医療院	—		0

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

H.30.4より標榜科目を内科、リハビリテーション科の2つに変更した。

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

各病棟の病床稼働率の目標達成推移や回復期リハ病棟のアウトカム指数、リハビリ平均単位、在宅復帰率等の基準を毎月把握している。

【4. その他】(自由記載)

--

王司病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団季朋会 王司病院
開設主体	医療法人社団季朋会
所在地	山口県下関市王司本町1丁目18-27
許可病床数 (病床の種類) (病床機能別)	医療病床 247 床 (別に介護医療院 48 床、合計 295 床) 療養病床 177 床、精神病床 70 床 回復期 60 床、慢性期 117 床、認知症治療病棟 70 床
稼働病床数 (病床の種類) (病床機能別)	医療病床 247 床 (別に介護医療院 48 床、合計 295 床) 療養病床 177 床、精神病床 70 床 回復期 60 床、慢性期 117 床、認知症治療病棟 70 床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、皮膚科、泌尿器科、精神科、整形外科、リハビリテーション科、歯科
職員数	279
・ 医師	8
・ 看護職員	97
・ 専門職	78
・ 事務職員	22

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

療養病棟入院基本料1、療養病棟入院基本料2、回復期リハビリテーション病棟入院料4、
認知症治療病棟入院料1

平均在院日数 154.6日、病床稼働率 93.5%

② 自施設の課題

- ・在宅機能の強化
- ・総合病院や地域のクリニックとの連携

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・下関市内や山陽小野田市を含めた総合病院からの受け皿として、当院の役割を明確にし、それに合った病院機能を備える。
- ・地域のクリニックとの繋がりを強化し、病診連携を図ることで地域医療へ貢献する。
- ・在宅復帰のための援助及び住み慣れた場所で生活をするための支援。
通所リハビリ、訪問リハビリ、訪問介護など介護サービスの提供及び介護予防支援を行い、法人全体で地域の健康増進を図る。

② 今後持つべき病床機能

- ・ニーズに合わせ当院の保有する病床の再編成

③ その他見直すべき点

- ・病床稼働率が低下している。
地域のクリニックとの連携強化を行うとともに、医療の質向上が必要と感じる。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	60		60
慢性期	165		117
休棟等			
(合計)	225		177
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		48

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	療養病床48床を介護医療院に転換	医療と生活支援機能を併せ持つ介護医療院を開設

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

長府病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 長府病院
開設主体	医療法人
所在地	山口県下関市長府中之町2番4号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 60床 慢性期 60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床 60床 慢性期 60床
診療科目	内科、外科、神経内科、整形外科、呼吸器科、循環器科、消化器内科 放射線科、リハビリテーション
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	70 (看護補助者9名、厨房職員6名、清掃員2名を含む) 常勤2名 (非常勤医師常勤換算後2.8名) 計4.8名 34 10 7名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 障害者病棟：13対1入院基本料 54床 地位包括ケア病床 6床 計60床
病床稼働率 94.3%

② 自施設の課題

- ・施設の老朽化で、多床室、トイレ、浴室等の改修又は改築等が、療養環境向上のため必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

現在は障害者の受け入れ、レスパイト等で貢献したいと思っている。
32年度以降介護医療院への転換が可能となったときは、介護医療

② 今後持つべき病床機能

当分の間は慢性期機能から介護医療院へ転換希望

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	60		60
休棟等			
(合計)	60		60
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
平成35年頃	平成33年度以降、介護医療院への転換が可能となった場合、改修又は改築により介護医療院を検討したい。	介護医療院（転換可能の時）

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

あずま病院

医療機関2025プラン

平成31年2月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団葵会 あずま病院
開設主体	医療法人社団葵会
所在地	下関市吉見新町1丁目6番17号
許可病床数	80床
(病床の種別)	療養病床 80床
(病床機能別)	慢性期 80床
稼働病床数	80床
(病床の種別)	療養病床 80床
(病床機能別)	慢性期 80床
診療科目	内科
職員数	56名
・ 医師	2名
・ 看護職員	37名
・ 専門職	5名
・ 事務職員	4名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院基本料2（注11に規定する届出）

病床稼働率98.7%

② 自施設の課題

30年12月1日 新規開設

医療法人社団 葵会 あずま病院

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

開設以降（平成30年12月～平成31年1月）の病床稼働率 98.7%で、ほぼ満床。

入院待機状態も多く、地域の確たる需要がある。ターミナルケアを含む地域のニーズに
応えていきたい。

② 今後持つべき病床機能

② その他見直すべき点

入院加療の機能に加え、訪問診療及び訪問看護サービス等の、在宅ケアの推進を図る
必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	80		80
休棟等			
(合計)			
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

療養病棟入院基本料2（注11に規定する届出） 重症者収容率を高め、注11の経過措置解除
--

【4. その他】（自由記載）

--

西尾病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人其桃会 西尾病院
開設主体	医療法人其桃会
所在地	下関市竹崎町1丁目16番3号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	75床 療養病床 75床 慢性期 75床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	75床 療養病床 75床 慢性期 75床
診療科目	内科・循環器内科・リハビリテーション科・血液内科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	78名 2名 56名 15名 5名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・届出入院基本料 — 療養病棟入院基本料（I）
- ・平均在院日数 115日
- ・病床稼働率 98%

② 自施設の課題

- ・療養病床の削減に対しての生き残り。
- ・急性期病院の受入先としての役割。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期病院・開業医からの受入先としての慢性期病院の体制の維持

② 今後持つべき病床機能

- ・慢性期病院として現状のままの推移。
- ・来年度通所リハビリテーションの新設予定

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	75		75
休棟等			
(合計)	75		75
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	通所リハビリテーション	介護保険利用者の取り込み

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

通所リハビリテーションの新設

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

前田内科病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団三陽会 前田内科病院
開設主体	医療法人社団三陽会
所在地	下関市川中豊町7丁目1番39号
許可病床数	43床
(病床の種別)	療養病床 43床
(病床機能別)	慢性期 43床
稼働病床数	43床
(病床の種別)	療養病床 43床
(病床機能別)	慢性期 43床
診療科目	腎臓内科（人工透析）、内科、循環器内科
職員数	70名
・ 医師	2名
・ 看護職員	27名
・ 専門職	34名
・ 事務職員	7名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟20対1入院基本料
平均在院日数 211.2日 病床稼働率 86.1%
特徴 入院透析中心

② 自施設の課題

- ・ 近隣医療機関からの紹介による外来透析患者の増加のために透析床数の空きがなく、病床の空きがあっても入院透析患者の受入れができない。
※平成30年9月きし腎泌尿器科の新築移転に伴い外来透析床数を増床したため、当院の入院透析患者の受入れ余力も増加した。
- ・ 入院患者の高齢化・認知症状の進行等により診療報酬に繋がらない人員の増加や経費の増加が嵩み病院単体の経営は赤字幅が増大している。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 透析患者とその家族の高齢化等により通院困難な透析患者の増加が見込まれる中で、透析ができかつ長期入院が可能な療養病棟の役割は大きい

② 今後持つべき病床機能

- ・ ①の事情に鑑み療養病棟の機能は維持する必要がある

③ その他見直すべき点

- ・ 系列のきし腎泌尿器科を移転して外来透析床数を増床し、外来透析患者の当院からの転院を進めて、入院透析患者の受入れを可能にしていく
※平成30年9月きし腎泌尿器科の新築移転終了。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	43		43
休棟等			
(合計)	43		43
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> 健全な経営を維持するために病床稼働率を高くして、病院単体の赤字幅を少しでも減少する

【4. その他】(自由記載)

--

(医) 桃崎病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 桃崎病院
開設主体	医療法人
所在地	下関市田中町 1-10
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	128床 療養病床 128床 医療療養 90床、介護療養 38床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	128床 療養病床 128床 医療療養 90床、介護療養 38床
診療科目	内科、循環器科 外科、胃腸科、肛門科、 整形外科、リハビリ
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	85.6名(常勤80名、非常勤5.6名) 5.4名(常勤4名、非常勤1.4名) 57名(常勤53名、非常勤4名) 14.2名(常勤14名、非常勤0.2名) 9名(常勤9名)

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料

医療療養病床・・・入院基本料2

介護療養病床・・・療養型介護療養施設 サービス費（vi）療養機能強化型B 多床室

② 自施設の課題

- ・地域患者の入院需要はあるが、夜勤可能な看護職員（看護師、看護助手ともに）の確保が困難な状況が続いているため、施設基準をクリアーする人員配置の維持に問題があり、入院対応に制限を要しはじめた。

よって、継続雇用が困難な場合の対策を要する。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期治療を終えたものの、在宅復帰のためのリハビリや医療処置の継続が必要な患者の受け入れ
- ・療養型でも回復期リハ病棟に近いレベルのリハビリサービスを提供し続けていく
- ・地域住民の重症ではない病状変化に対する時間外を含めた入院対応の拡大
- ・自宅在宅患者の訪問診療と看取りの強化

② 今後持つべき病床機能

- ・看護助手の継続的雇用が安定するならば、介護医療院への一病棟の転換を検討している
- ・今後も医療が提供できる病棟は必要であり、医療介護職員の人員に見合う規模で継続していく

③ その他見直すべき点

- ・今後の医療需要の観点と継続確保できる医療介護職員の人員配置に見合う病床規模を模索しているが、現状規模縮小は避けられない見通しであり、経営維持が危ぶまれる。
- ・規模を踏まえた施設建て替えも検討している。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期(医療)	90		90
慢性期(介護)	38		0
(合計)	128		90
介護保険施設へ移行予定	—		32
うち、介護医療院	—		32

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018	介護療養病床38→32床に	人員配置施設基準に対応するため 地域の介護重度者のニーズに応える
2019	介護療養病床32床を介護医療院へ転換	

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・病床転換に向けた地域医療介護総合確保基金の活用を予定

【4. その他】(自由記載)

<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均より早く少子高齢化を迎えた下関市において、今後も地域に役立つ医療介護のサービスを提供していく覚悟であるが、当院だけでなく不足する職員(特に看護師、ケアワーカー)の雇用問題は大きいと思われる。病床機能構想で病床数の検討をする前に、自然減床するのではないか。
--

医療法人 元洋会 森山病院

医療機関2025プラン

平成30年11月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 元洋会 森山病院
開設主体	医療法人 元洋会
所在地	下関市宮田町2-8-20
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	134床 医療療養病床：86床、介護療養型医療施設：48床 慢性期134床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	134床 医療療養病床：86床、介護療養型医療施設：48床 慢性期134床
診療科目	内科、消化器内科、脳神経外科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	98名 4名 75名 8名 7名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

療養病棟入院料 1 : 84床

療養型介護療養施設サービス費(1) : 48床

平均在日数 : 313.5日

病床稼働率 : 91.4%

② 自施設の課題

今後地域の医療需要が低下していく事が見込まれる。

地域の状況に合わせた選択が必要。

看護職員、看護補助職員の確保が年々難しくなっている。

人員の確保をいかに行っていくかを検討していく。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域の急性期病院からの受け皿としての役割

リハビリによる在宅復帰・機能の維持

地域の施設への訪問診療・急変時の対応

② 今後持つべき病床機能

介護療養型医療施設は廃止となるが、それに代わる介護度の高い方に対応した施設が必要。

介護医療院への移行を検討していく。

医療療養病棟は、医療区分の高い方の受け入れを続け維持していく方針。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	134		86
休棟等			
(合計)	134		86
介護保険施設へ移行予定	—		48
うち、介護医療院	—		48

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--